第3869図

まつ科

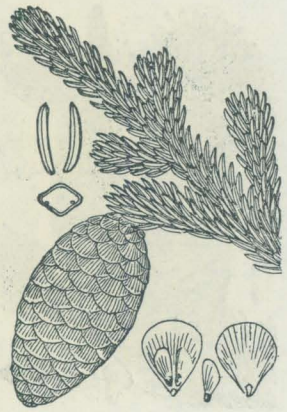
ひめばらもみ

Picea Maximowiczii *Regel*

秩父、八ガ岳、北岳附近に限って分布する常緑針葉喬木で、ブナ帯に生じ、高さ20–30mに達する。幹の皮は灰褐色で片々状に厚く剝げる。若木では葉が細針状であるが、大木では、断面鈍稜の正四角形に近い棒状で長さ1cm強、四面に等しく気孔条を持ち、バラモミに似て痩せて短かい。1年生枝は黄褐色無毛、次年に灰褐色になる。毬果は4cm長程の長楕円体で両端急に円い。はじめ紫褐色、熟して黄褐色となる。種鱗は上半半円、下半広楔形である。和名は姫バラモミでバラモミに似て全体小作りであることを示す。

第3870図

まつ科



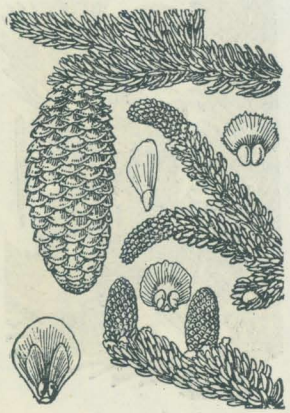
やつがたけとうひ

Picea Koyamai *Shirasawa*

本州中部の八ガ岳及び南アルプスの一部にのみ生ずる常緑喬木で、個体数は少ない。高さ20m、径50cm内外に達する。樹皮は灰褐色、薄く長い片々となって良く剝げる。若木では枝は淡赤褐色で細線形葉をつけ、断面稍偏平の菱形、気孔条は向軸面に多く、ヒメバラモミ等とほとんど区別し難いが、老木の枝では葉は太い四角柱状で先端鈍く尖る。断面多少扁圧の菱形で、樹脂道は側稜の下方に接在する。毬果は卵状楕円体で、上部瘠せて尖り、バラモミについで大きく、長さ9cm内外、はじめ濃緑、熟して黄褐色、光沢あり。種鱗は円形縁で細鋸歯を有する。和名は産地名に基ずく。

第3871図

まつ科



あかえぞまつ

一名 しんとまつ

Picea Glehni *Mast.*

北海道に産する常緑喬木で特に北部及東部に多く、また樺太にも産する。エゾマツ、トドマツと混淆もするが、湿潤の谷間や峯すじでは純林となることも多い。エゾマツと比べて樹幹はエゾマツの樹皮の縦裂するのと違って、赤褐色の円い片々にささくれ立ち、若枝は赤褐色で密毛があり、葉は若木では線形でエゾマツ程に巾広き扁平とならず、両面共に白色の気孔線あり、毬果は長さ8cmを越え、円柱体で、はじめ紫紅、後明るい褐色、種鱗は質厚く且つその縁辺は円形でうねることがない（エゾマツは細かくうねる）点で区別できる。和名はエゾマツに比べて樹皮赤きに依る。材はパルプ用材、建築、器具材に使う。

あぶらすぎ（油杉・鉄杉）

一名 かたもみ

Keteleeria Davidiana *Beissn.*

台湾及び支那中部以南の山地の向陽地に濶葉樹と混淆する常緑喬木。日本では稀に栽培されるが、老木はない。高さ10m、直幹で皮は灰褐色で縦の割目がある。若枝は赤味を帯びた灰褐色で条線なし。根元に多数の鱗片を残存する。葉は広線形でほぼ左右に振り分けて斜めに附き、長さ3cm内外、汚黄緑色で中脈高く両面に隆起、先端は鋭尖形。毬果は枝端に立ち円柱形で8cm長内外、淡褐色、円形の種鱗は疎に重なり、その辺は屢〻外捲、苞鱗は軽く3岐したへら形で小さく、外から見えぬ。和名は材に油多きため、台湾で油杉と呼ぶに基ずく。

第3872図

まつ科

第3873図

ぬかぼしくりはらん

Polypodium Buergerianum *Miq.*
(=Microsorium Buergerianum *Ching*)

房総半島以西の暖地の林内陰湿地で樹幹、岩面等に長く附着匍匐する多年生の羊歯草本。根茎は褐色鱗片を密生した紐状で1–2cmの間を置いて葉をつける。葉はほぼ直立し、高さ30cm内外、葉柄は緑色で殆んど裸で、しかも硬い。葉面は長楕円状披針形乃至長披針形で革質、黄緑色、多少光沢があり、表裏の別なく、基脚は楔状に柄に流れ入る。中脈が太く隆起する。側脈は生時見えにくいが網眼をなす。嚢堆は裏面一面に散在し、小円形で黄褐色に熟し、苞膜なし。和名は糠星栗葉蘭でクリハランに似て黄褐色の星（嚢堆）を一面につけるのに因る。

うらぼし科

第3874図

みょうぎしだ

Polypodium Someyae *Yatabe*
(=Marginaria Someyae *Nakai*)

群馬県妙義山附近と徳島県那賀川流域とにのみ産する稀産の羊歯草本で、日蔭の岩面に着生する。地下茎は肉質、棒状で横に匍い、鱗片密生し、上面に葉を1–2個ずつ生ずる。葉は斜めに垂れ葉柄は瘠せて針金様、平滑、強靱。葉面は単羽状に全裂し、長楕円状で頂部急に細くなって頂小片的になる。羽片は鎌状に曲った広線形で互に離れ、屢〻対生し、多少不規則の波状鋸歯があり、草質に近い革質、淡蒼緑色、裏表の差少なく、主脈に沿った網眼中の一遊離脈端に円形の嚢堆をつける。苞膜はない。和名は最初の産地妙義山に因る。

うらぼし科